

姪浜炭鋳早良炭鋳

(準備中)

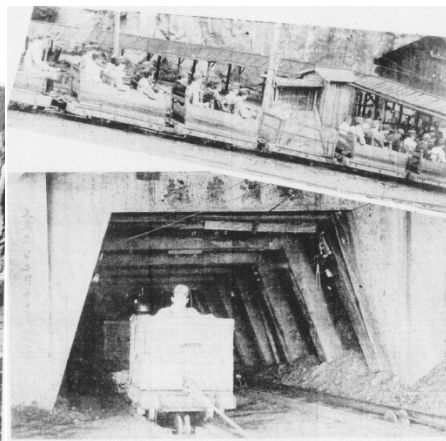
②西新・昭代の祖原公園の所・・・姪浜鉱業(株) (所有者の一人が右翼の頭山満) から福岡鉱業(株)へ所有権は変わりました。採炭数は M43・44・45・T2 年で合計 8 万 3 千トン。
当時は西抗と呼ばれました。その後、T3 に豊国鉱業(株)と姪浜鉱業(株)を合併させ福岡鉱業(株)とし、経営権は大倉組→T6~山本唯三郎(船成金)→T10~鈴木商店と変わります。採炭の主力も小戸と豊浜に移ります。早良郡史では場所は不明ですが原村や壱岐村にも炭鉱があったようです。

③小戸(現在の公園付近)と愛宕(豊浜団地付近)の2カ所・・・福岡鉱業(株)から早良鉱業(株)へ福岡市内では最大の炭鉱で、M43~S3 年までの合計で 484 万トン。最盛期は T6~T12 の間は毎年 40 万~50 万トンの採炭数でした。ここからは栈橋を作り直接船にて運搬しました。
採掘では排水に苦労した様です。石炭の地層はほぼ海拔下 50~250 メートルの所に、20 度でなだらかに傾斜しトロッコも斜めに入抗しています。
T3 年に姪浜鉱業(株)が起業し、T4 年に福岡炭鉱を買収し早良鉱業(株)となりました。
労働者は T6~T12 の最盛期 4000 名程で、家族を合わせると 1 万人を遙かに超す炭鉱の町でした。
S20 年、6 月の B-29 による町ぐるみ焼き尽くす焦土作戦で早良炭鉱も焼却。
さらに同年の秋に暴風雨で水没し、炭鉱は一時操業を中止しました。
S21 年に操業を再開し S37 年まで操業しました。
S35 年、早良興産(株)が設立。
S37 年、炭鉱は完全に閉山。
S47 年、早良興産と早良鉱業が合併し、早良興業(株)が設立。
H13 年、早良興業(株)がサワライズに社名変更、現在に至る。

姪浜の町は鎌倉時代には探題がある町として、江戸時代は宿場町、港町として栄え「姪浜千軒」と言われてきました。明治からは炭鉱の町としてもさらに賑わいを増しました。町は M22 年に自治制となり早良郡姪浜村でスタート。役場は現在の西鉄ストアの所に在りました。

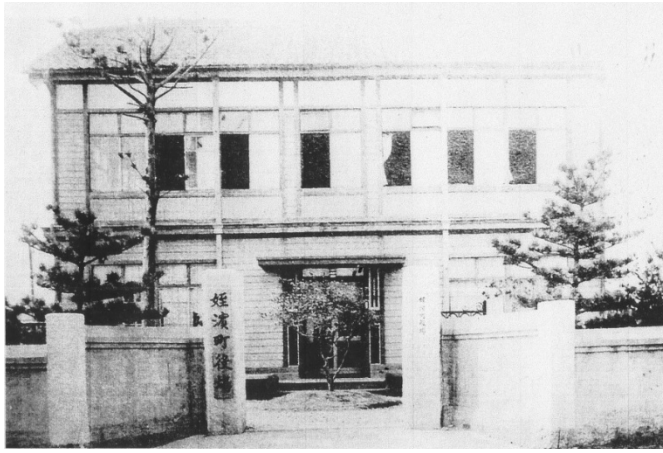


S30 年代愛宕本抗のボタ山と炭鉱住宅



早良鉱業トロッコの入抗・出抗風景

当時、早良郡は西新・姪浜・樋井川・原・田隈・入部・内野・金武・壱岐・残島(能古島)を含む広大な地域でした。早良病院も S25 年に炭鉱が建設した病院で現在の西区姪浜に在りますが、当時の早良の名前が付いています。M26 年に姪浜町となり、S8 年に福岡市に編入しました。上段と下段の写真はいずれも「姪浜とその周辺」という郷土写真集で、「姪友会」が発行したものの中にあります。



姪浜村役場

(2) アジア太平洋戦争前後の福岡市内の炭鉱

- ①下月隈—S35年閉山
- ②東平尾—S29年閉山
- ③田島—S33年に閉山。ここには珍しく炭鉱住宅は無く、労働者はサラリーマンで自宅から出勤しました。
- ④西戸崎—S39年に閉山

S21からの石炭鉱業の推移（福岡市史より）

	炭鉱数	出炭トン	労働者数
S21	2	8万トン	1600人
S22	2	15万	2300
S23	4	20万	2600
S24	4	18万	2200
S25	4	18万	2000
S26	4	20万	2000
S27	4	20万	1900
S28	4	22万	1600
S29	3	19万	1100
S30	3	21万	1300
S31	4	23万	1500
S32	4	27万	1500
S33	4	25万	1400
S34	3	24万	1300
S35	2	25万	1000

(3) 朝鮮人強制労働者に関して

- ①日本が朝鮮に侵略する中で、朝鮮の人たちに給料・休み・社宅などで好待遇を約束し、強引に船に乗せ博多港まで運んで来ました。その強制連行には警察までが一緒に参加し、まるで暴力団と警察がつるんだ強制連行です。筑豊全体で15万人を越える朝鮮人強制労働者がいました。1990年韓国大統領の要請で日本政府が調査をしたものの詳細な実態は今も不明です。

②その中でも麻生炭鉱は、「暴力と最悪の炭鉱」と言われています。一言で形容すれば暴力団が支配する炭鉱とも言え、社宅はまるで刑務所の様に塀で覆われ、逃げ出すと壮絶なリンチが待っています。多くの人たちがリンチで死亡していますが、全ては工作中的の事故で死んだことになっています。麻生炭鉱の1/3が朝鮮人で大規模な朝鮮労働者のストライキが3週間起こり、それが筑豊全体に広がり、全国からお米などの支援がありました。日本人との同一賃金を獲得しました。当時炭鉱では納屋制度ですが、これが実質的な暴力団制度です。暴力・恐喝・横領・賭博・婦女暴行が日常茶飯事に行われていました。

③早良炭鉱にどれほどの朝鮮人労働者が働いていたのか、竹内康人の「調査・朝鮮人強制労働、炭鉱編」によると、早良炭鉱の連行者数として下記の数が出ています。

(1939～1944年の数字が下記の福岡市史の中でも出てきます)

1939～1942	888人
1943	623
1939～1944	1689
1944	1530

次に福岡市史によると下記の内容が記録されています。早良炭鉱のS19年(1944)として、実に65%が逃げ出しています

移入者	1689人
逃走者	1096
不良送還者	10
その他帰鮮者	204
現在員数	458
死亡	9
発見再就労	88
既住労務者	98

愛宕山には、朝鮮人強制労働者の仏を祀った石仏が多数ありました。竹富富巳男の「異郷の炭鉱」の中に、福岡県特高課の俘虜分布表が有り、そこには早良炭業所として250人という記載があります。何年の記録かは不明です。尚この場合の「俘虜」(捕虜)は朝鮮人を除く、他国の戦争捕虜になると思われます。国籍は不明です。

以上